

平和の大切さ、戦争の悲しさ

那覇市立真和志小学校六年 翁長 花奈

「今、生きていることが平和なんです」という言葉にとっても心をうたれました。この言葉は平和祈念資料館の人から聞きました。今までの私なら、そう深く考えなかつたと思います。

資料館に入る前、平和の礎を見て回りました。そこには数えきれない、たくさん人の名前が刻まれていました。日本人の名前だけではなく、沖縄で亡くなった外国の人々の名前も多くありました。

しばらくして、資料館に入るとたくさん資料がありました。その中でも特に印象深かったのはガマの中での生活でした。私のおばあちゃんから、ガマについて少し教えてもらいましたがくわしくは知りません。ガマの中での生活を再現して、体験できる場所がありました。中に入ると、とても暗く、ばくだんか何かの音も聞こえました。こんなところで生活をしていたことにおどろきました。ここで生きぬいた人が思っていたことは何だろう、とふと、思いました。

資料館の人が、「戦争」についていろんなことを話してくれました。話を聞いていくときに、二度と戦争をしちゃいけない、と思っていました。私はメモを書きながら話を聞いていました。最後に資料館の人が、「今、生きていることが平和なんです」と言いました。そのとき、メモをしていた私は顔を上げました。生きていくことは当たり前、と思っていた私の考えが変わりました。生きていくことに感謝をして生きていこうと思いました。

将来、戦争を知らない、戦争を体験したことがない私たちのような子供が増えてきます。なので、私たちは戦争のつらさや悲しさを知って、もう戦争はしちゃいけない。という自覚を持って生きたいです。

昔、日本も戦力でいろんな国を支配していたことを知りました。戦力を使っても人々

は幸せにならないのに、どうして戦争をしようという考えが生まれるのかわかりません。そんな人達にどれだけ戦争がいけないことなのか、どれだけ苦しい思いをする人がいるのかを知ってほしいです。

今も世界のどこかで、争い事をしている人達もいるかもしれません。世界中から戦争などの大きな争いはなくなつてほしいです。ですが、私一人の力では大きな争いも、小さな争いもなくすることはできません。もし、一人一人が争いをしない、と意識してけんかなどの小さな争いを自分たちで解決できたら、戦争という大きな争いもなくなつてくると思います。

大事なことは、一人一人の気持ちです。「もう戦争は二度としてはならない」という気持ちと、「今、生きていることが平和」という気持ち、最後に、「他人ことを大切にする」という気持ちが大切なんじゃないかな、と私は思いました。

一人一人の心がおだやかに優しくなつたら争いも起こらないし、悲しむ人もいなくなつてみんなが幸せに暮らすことができる『平和な世界』になると思っています。